

## 天に唾つばきする者か？

長野市の地滑りで老人ホームのお年寄り三十人近くが生き埋めになるという悲惨事が七月にあった。老人ホームということのためか、深く問題化もされず、世人から忘れ去られようとしている。

そのホームでは、一階は元気な人の養護老人ホーム、二階は老衰者の特別養護老人ホームにあてていた。愚なことをしたものだ。だれが考えても一階と二階は逆でなければならぬ。もしその通りであったなら、あの悲惨事はずっと様相をかえていただろう。福祉施設の建て方は県や厚生省の厳しいチェックがなされるものであるが、初歩的根本的ミスとしかいいようがない。お年寄りの車いすに座ったままの生き埋め姿、職員は全員無傷。ああ、なんとという対照。

最近、大分市の某特養ホームで男年寄りがおばあさんを傷つけ、自殺を遂とげている（本紙十月四日）。報道によると、五十七年から二人は親しくなり、園の配慮で同室で暮らす、一方が病気のため、この七月から一、二階に分離させられている。相愛

の二人を園がくつつけ、また離す。結果論ではあるが、そんな無茶なやり方ではこんな結末が生じて当然ではないか。「生は性」とかいう言葉にまどわされたホーム内の性の悲劇である。

老人ホームによつては、男女混浴、男女混合部屋を得意そうにしているが、これほどの無知はない。また厚生省だが、ホーム建設では男女別便所を厳格に要求しているが、男女混合にはいままお無定見ひていけんのまま流れている。

私のホームでも明日何が起こるか分からない。毎日ビクビクしながら朝を迎える。それを思うと、よそのホームのことはとやかくいえない。しかし、それを恐れていては何もいえない。教訓があればいわねばならない。でなければ進歩もない。

(一九八五年十一月二日)